

○事業所名	放課後デイサービスえがお		
○保護者評価実施期間	2024年 12月1 日		2024年12月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11件	11件
○従業者評価実施期間	2024年12 月1 日		2024年12 月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9件	9件
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2 月1 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	全ての職員が児童福祉分野で5～10年以上の経験年数が豊富な職員で構成されており、児童発達支援管理責任者、看護師、保育士、理学療法士のがそれぞれの立場からお子様の見立てをしてアプローチすることができる	成長に合わせ各職種の見立てを行いケア会議を必要に応じて(半年に1度以上)開催してお子様の意思を大切にしながら本人に最善の利益が得られるよう支援をおこなう。又、短期目標、長期目標を設定しお子様に達成感が感じられるよう工夫している	保護者と面談を通してお子様の成長を共に確認し必要に応じて児童発達管理者以外の職種も面談に応じ専門的アドバイスを充実させる。又、その専門性を高めるために事業所内、外の部研修を積極的に受講していく。
2	個別プログラムで各お子様のニーズに応じたプログラムを作成し効果的に支援を行う事ができる	お子様と保護者の要望を理解して送迎時、SNS、電話などで随時相談、対応をおこない必要な支援を行うようにしている。また、お子様の健康状態や心理的面を経験豊富な職員が活動内容の調整を行うようにしている。	お子様の特性や希望を詳しく把握しより効果的支援の充実を図る為、対応する個別支援書の作成、調整をする。プログラム内容の充実を行う。プログラム担当職員のみではなく全職員が支援のねらいや意味を理解することの徹底をするため職員間のコミュニケーションを更に深める。
3	保護者がお子様を安心して預けていただける支援を行っている	連絡帳のICT化、お弁当配達サービス、利用日のフィードバック、事故、怪我等の連絡、緊急時の対応、定期的な面談を中心に保護者の個別的なニーズに合わせて保護者支援を行うように努めている	保護者会、保護者面談や普段の連絡調整の中から新たなニーズが求められた際には柔軟に対応ができるよう余裕を持った活動内容や職員のスキル向上を目指す

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スペースは規定を満たしているが最小限である為、運動時には周囲への配慮が必要となる	第1級地であるため十分な活動スペースの確保が困難である 静かな活動時には問題ないが大きな運動を要する時には周囲に危険が及ばないよう注意が必要となる	近隣へ散歩、送迎車でドライブ、同法人保育園の一部利用など活動内容に応じてスペースの確保ができるよう工夫を行っている。又、定員数を超すことがないように努めている
2	地域交流参加の機会が少なく地域のイベントへの参加のしづらさがある	土日祝日が休業日に当たるため地域祭りや交流の機会が持ちづらい、また授業日においても授業終了後に時間の確保が困難であり、その時に要する送迎車が1台のみ、人員の確保も困難である。	地域施設フリースペースへ散歩、同法人保育園児と交流、商店街のハロウィン参加、作品展への参加など、直接お子様が外向く事 以外にも繋がるよう「ゆるいつながり」を意識した活動内容を見直す
3	保護者同士のつながりを持つ提供機会が少ない	必要に応じて交流の機会が必要であり事業所としてサポートを行っていく	保護者会の開催をおこない子ども同士の成長を認めながら、子育て中の共有ができる場所の提供を定期的に行えるようサポートするよう努める